

平安京右京六条一坊六町  
現地説明会資料



2002年3月30日

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

調査地：京都市下京区中堂寺栗田町

調査期間：2002年1月17日～継続中

調査面積：750㎡

調査機関：（財）京都市埋蔵文化財研究所

**概要** この調査はJR丹波口駅周辺の再開発計画に伴うものである。周辺では旧大阪ガス敷地（現京都リサーチパーク）、旧専売公社跡地などを対象に昭和62年度から継続的に発掘調査を実施してきた。これまでに調査を行った地域は平安京左京六条一坊一・二町、右京六条一坊三・五・六・十一・十二・十三・十四町の9町におよび、平安時代の邸宅跡や街路、川跡など多数の遺構を確認している。今回の調査対象である右京六条一坊六町でも平成5年度に実施した8次調査で鎌倉時代の池や建物を検出している。

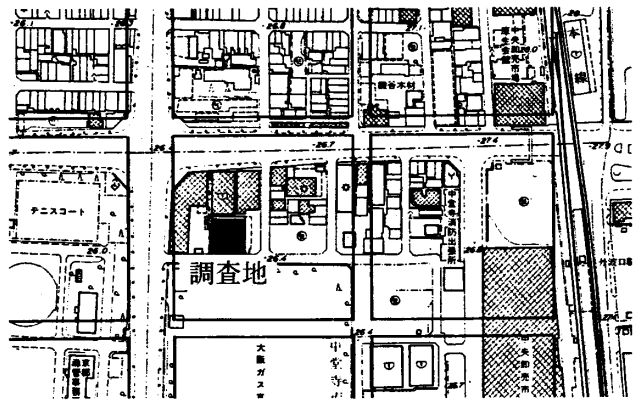
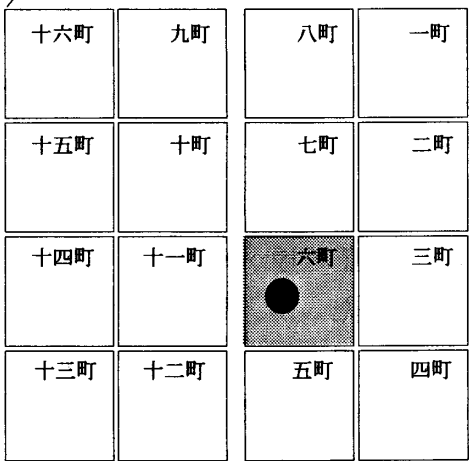
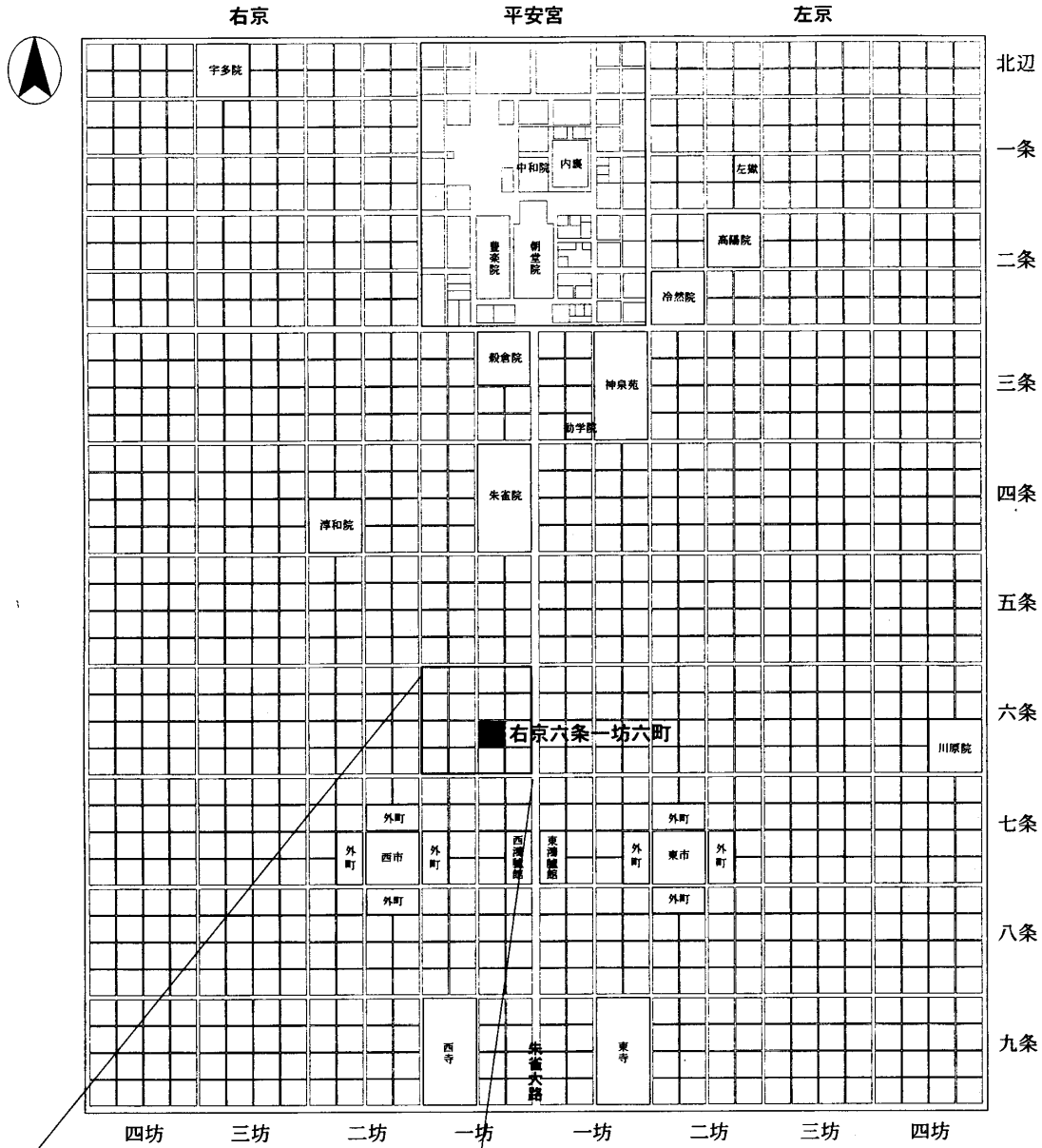
今回発見した石列を伴う建物はそれらの遺構と関連するものとみられ、六町のかんりの部分を占地する邸宅内に建てられた御堂跡と考えられる。

**遺構** 今回の調査で検出した主な遺構は鎌倉時代（13世紀前半）の御堂と考えられる石列を伴う建物、この建物の東に位置する別の建物に関連すると思われる地業、溝などである。また下層には平安時代の溝や、弥生～古墳時代の川跡がある。しかしながら、下層遺構については建物と重複しているため、現時点ではこれらの遺構は掘り下げていない。

建物周囲の石列は雨落ち溝の護岸とみられるが、石は北辺を除いて建物側の一列にだけ並んでいる。平面規模は南北約11.5m、東西は西側が調査区外へ延びているために不明である。この石列で囲まれた内側の東北部に礎石と思われるやや大きめの石が2.4m間隔で2間分南北に配置されているが、この3個の礎石に沿って拳大の石が一列に並ぶ。さらに、南辺の石列近くに2個の石が4.8m間隔に配置され、その東側の石は礎石列の延長上に位置する。周囲の石列内側は硬く整地されているが、最上部の整地層を取り除いた時点で、焼土や炭化木を含む整地層を検出した。火災の跡を整理したような状況を示すが、礎石などの石材は火を受けておらず、この建物が被災したものでないことは明らかである。ただし、南辺の石列北側の焼土の下に2列の石列が確認されており、前身の御堂が火災に遭い、この建物はそれを再建したものである可能性がある。また整地層下部には礫を多量に用いた地業を確認している。

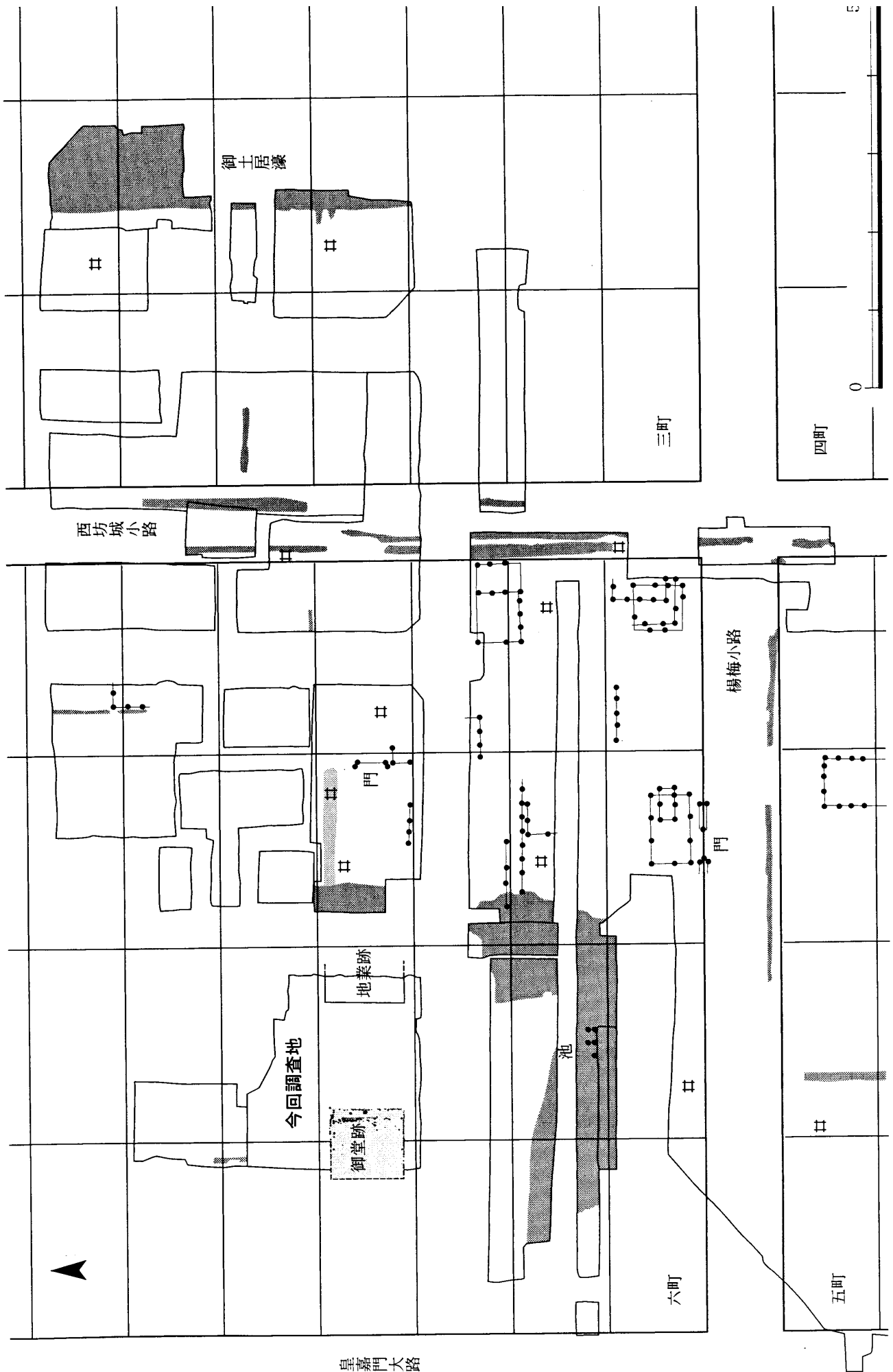
**遺物** 出土した遺物は主に土器類と瓦類である。土器類の大半は土師器だが、少量の瓦器や白磁など輸入陶磁器がある。瓦類はおもに建物の雨落ち溝や整地層から出土している。

**小結** 現在、調査を継続中のため、遺跡の全体的な評価は控えたいが、平成5年度に検出した池や建物など周辺の状況からみて、この御堂は寺院に関連するものではなく、邸宅内の持仏堂とみられる。史料的には空白のこの地域にこのような鎌倉時代の遺構を良好な状態で検出でき、今後この周辺ばかりでなく京都の歴史的変遷を明らかにしていく上で重要な資料が得られたと言えるだろう。また建物下部の礫を多量に用いた地業は、鳥羽離宮・高陽院・六勝寺・法金剛院・最勝光院など、院政期・鎌倉時代前期の寺院や宮殿にも同様のものがあり、この遺構との関連が今後の検討課題である。



1/5000

図1 調査地点位置図



皇嘉門大路

図2 六町とその周辺 (1/800)

Y-490

Y-492

Y-488

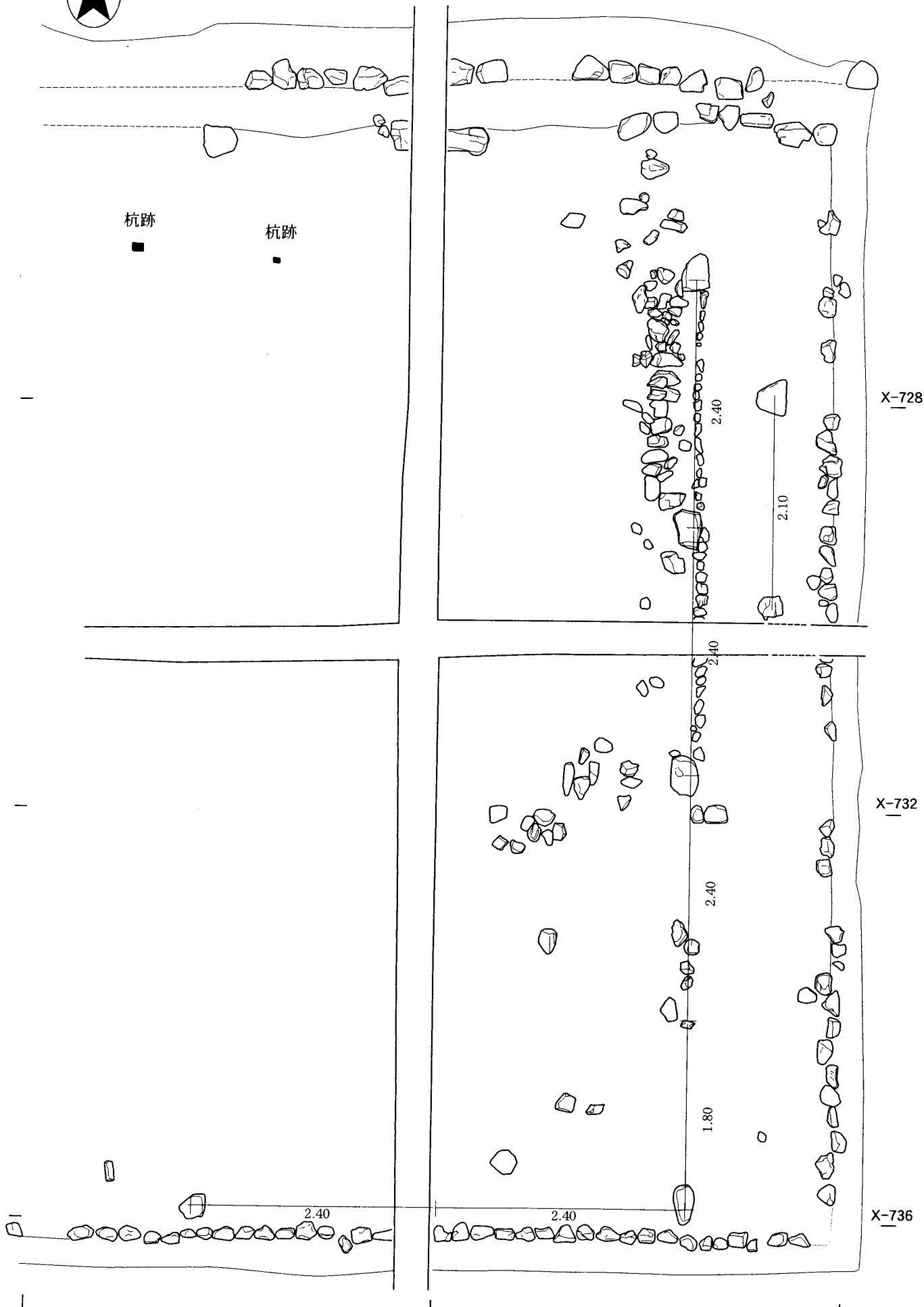


图3 遺構平面図 (1/50)

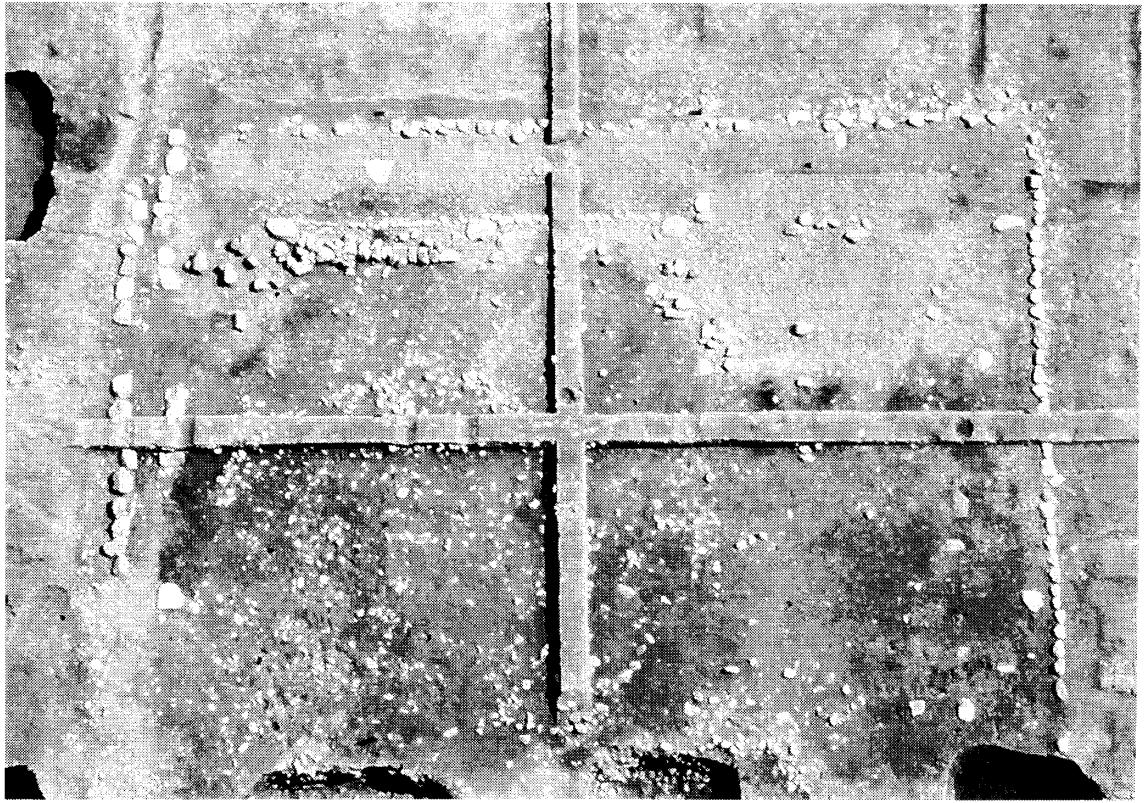


写真1 建物跡

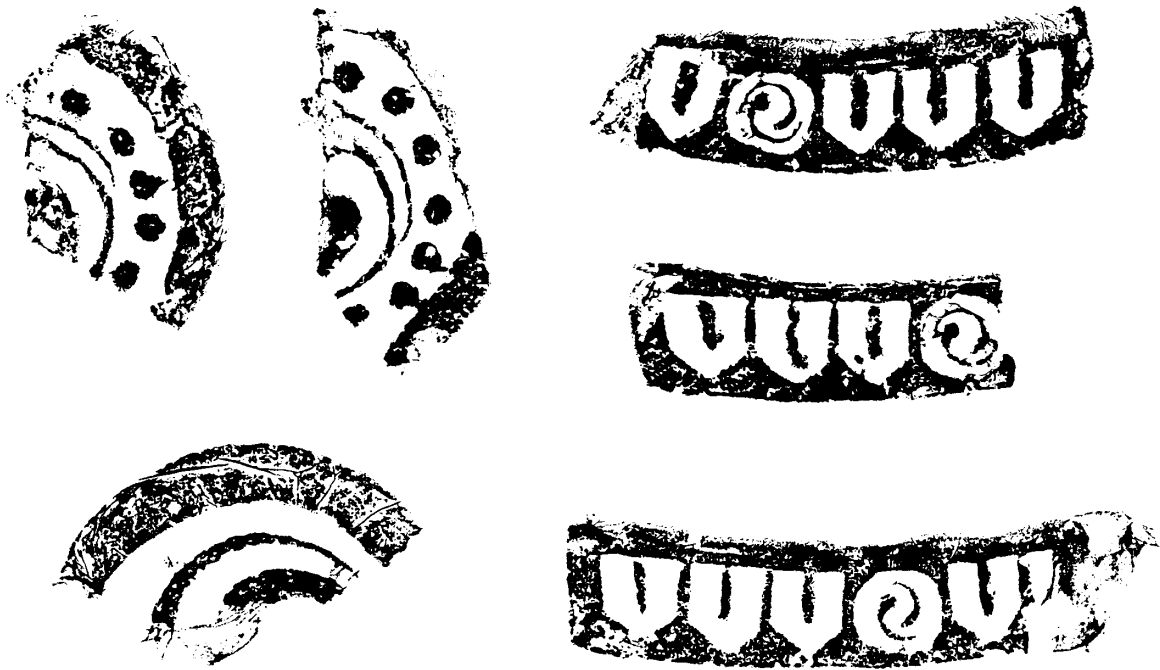


図4 建物跡出土軒瓦拓影 (1/2)